

平成14年度全国高校総合体育大会第55回全国高等学校バスケットボール選手権大会

平成14年 8月7日 (水)

会場 日立市市民運動公園中央体育館

【男子の部】 第6日目 決勝 Aコート 第2試合

チームA 県立能代工業 秋田	60	{ 12 1Q 14 13 2Q 16 20 3Q 16 15 4Q 21 OT	67	チームB 北陸 福井
----------------------	----	---	----	------------------

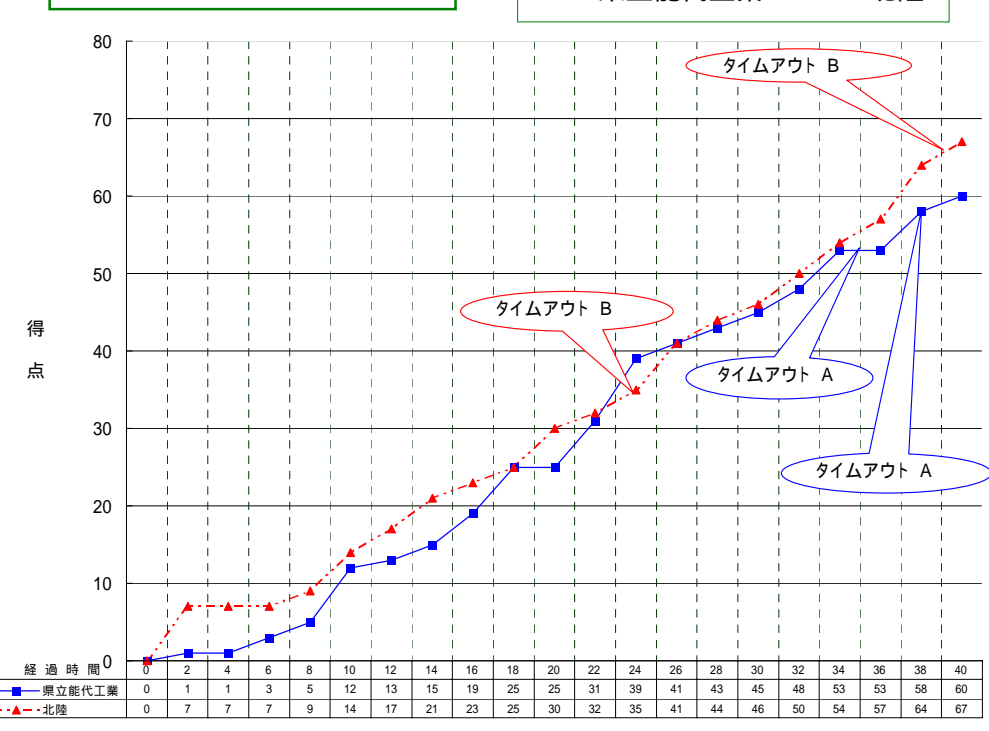
県立能代工業

番号	氏名	得点	3P		2P		1P		反則	リバウンド		ターンオーバー	スチール	アシスト	ブロックショット	出場時間 単位:分
			成功	試行	成功	試行	成功	試行		OF	DF					
4	黒政 成広	11	0	2	4	11	3	4	3	0	0	0	1	0	0	40
5	高久 順	14	0	0	3	11	8	10	4	3	9	1	2	3	2	40
6	吉田 政徳															DNP
7	内海 慎吾	21	2	11	5	17	5	5	1	1	9	3	3	2	0	40
8	富田 敏幸	11	1	4	4	15	0	0	4	0	3	3	2	0	0	40
9	高橋 優	3	1	4	0	1	0	2	0	5	0	1	2	1	0	40
10	梅津 敬介															DNP
11	土崎 貴宏															DNP
12	柴田 博満															DNP
13	宮城 徹															DNP
14	梁川 禎浩															DNP
15	二田 洋志															DNP
コーチ	加藤 三彦								0							
		60	4	21	16	55	16	21	12	9	21	8	10	6	2	200
		確率	19.0%	29.1%	76.2%				計	30						

北陸

番号	氏名	得点	3P		2P		1P		反則	リバウンド		ターンオーバー	スチール	アシスト	ブロックショット	出場時間 単位:分
			成功	試行	成功	試行	成功	試行		OF	DF					
4	石崎 巧	16	2	2	4	7	2	2	1	0	2	6	2	3	2	40
5	網野 奈	8	0	1	4	7	0	3	3	0	4	1	0	7	1	34
6	小柳 龍一	21	4	13	4	6	1	1	2	0	8	2	2	0	0	39
7	中山 賢吉	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
8	金野 力															DNP
9	王 豊晨	15	0	0	7	8	1	2	3	1	4	5	0	4	0	25
10	陳 金全	0	0	0	0	4	0	0	1	1	4	1	0	0	1	15
11	加藤 亮平	4	0	1	2	6	0	0	4	0	2	0	0	4	0	29
12	長田 陽佑	3	1	3	0	3	0	0	3	0	0	3	0	0	0	17
13	築館 潤															DNP
14	山本エトワード															DNP
15	西村 文男															DNP
コーチ	津田 洋道								0							
		67	7	20	21	41	4	8	17	2	24	18	4	18	4	200
		確率	35.0%	51.2%	50.0%				計	26						

2分毎による得点の推移



戦評

ここまで圧倒的な力で順調に勝ち上がってきた第1シード能代工。対して福大深、洛南との連日の厳しいゲームを制し勢いに乗る北陸。男子決勝は期待通りの大熱戦となった。

第1P、北陸はディフェンスで能代工得意のハイペースのゲーム展開にもって行かせない。能代工は#7内海、#8富田、#9高橋らに対するマークがきつく得点が伸ばせない苦しい立ち上がり。膠着状態が続き、14 - 12の北陸2点リードで第1Pを終える。

第2P、能代工の2 - 1 - 2ゾーンをうまく攻める北陸。#5網野が好アシストを連発し得点を伸ばす。能代工は第1P同様苦しい展開だが、#5高久、#7内海がリバウンドで踏ん張りを見せ、簡単には大きなリードを許さない。30 - 25の北陸5点リードで前半を折り返す。

第3P、北陸は第2P同様#5網野起点に得点を伸ばす。能代工は#7内海がドライブイン、アシスト、スティールと攻守に活躍し一時逆転。一進一退の展開となり46 - 45の北陸1点リードで第4Pへ。

運命の第4P、前半から豊富な運動量で他選手のヘルプに動き回っていた北陸#6小柳がスティール、3Pと活躍。カッティングやフラッシュを効果的に使い能代工ゾーンをうまく攻めた北陸が、先手先手を奪う。能代工は残り2分40秒、8点ビハインドの場面でタイムアウトをとり逆襲開始。ゾーンプレスで激しくプレッシャーをかけ、連続スティールから北陸のファウルを誘う。#5高久がフリースローをきっちり決め差を4点に詰める。北陸はタイムアウト後、落ち着きを取り戻した#4石崎らが能代工のゾーンプレスをかわし、67 - 60で逃げ切った。

北陸は昭和63年以来14年ぶりの優勝。能代工の得点源である3Pをほぼ完璧に封じ込めたディフェンスの勝利といえる。

主審 岸田 吉明

副審 藤本 洋

記入者 中村 宏